

THU



正倉院の防火対策などが報告されたト  
ークイベント（奈良国立博物館で）

# 文化財防災 努力と教訓

貴重な文化財を火事や自然災害から守るため、正倉院（奈良市）や国立民族学博物館（大阪府吹田市）の取り組みを学ぶトークイベントが、奈良国立博物館（奈良市）で開かれた。

1949年の法隆寺金堂壁面焼失をきっかけに設けられた文化財防火デー（1月26日）に合わせた企画。元日に発生した能登半島地震で甚大な文化財被害が

## 奈良でイベント

生じる中、2020年に設置された国の「文化財防災センター」の担当者も交えて意見交換が行われた。

宮内庁正倉院事務所保存課の高畑誠さんは、鎌倉時代の建長6年（1254年）の落雷など正倉院に起きた

## 正倉院、民博の取り組み紹介

過去の災害を紹介した。至宝を守る対策については、昭和の大戦期に宝物を避難させたことや、戦後には鉄筋コンクリート造の専用収蔵庫が造られたことを挙げた。制震装置や火災感知機の設置、特設消防隊の消防訓練も行われていると

国立民族学博物館では2016年、アイヌ文化を伝える茅葺き屋根の伝統的家屋「チセ」が燃えるほや騒ぎが起きた。同館の曰高真吾教授は、失火後の館内対応について報告。焼失は最小限に抑えられたものの、消防署への素早い通報や自衛消防隊との連携に課題が見られたという。その後、可燃性の高い資料の周囲に監視カメラや消火栓を増設するなど対策が強化された。

文化財防災センターの高妻洋成センター長を交えたパネルディスカッションもあった。組織が連携して行う防災訓練の必要性や、文化財防災の失敗した事例も振り返って教訓とすべきだといった意見が出された。

近年、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震と大きな災害が続いている。文化財防災の技術力を高める一方、一般の人にもその重要性を理解してもらうことが必要との指摘も出された。

（多可政史）